



## 教育相談室だより（令和2年度第8号） R2.12

2020年も残すところ1か月となりました。少しずつ寒くなってきましたが、心はあったかくなってもらいたいと思い、今回はO・ヘンリーの名作をご紹介します。読んだことがある人も久しぶりに味わってみてください。来年も、皆さんにとって、良い1年でありますように。



『賢者の贈りもの』 O・ヘンリー著（新潮文庫より要約）

1ドル87セント。これがデラが愛するジムにクリスマスプレゼントを渡そうと少しずつためた金額だった。もう明日はクリスマス……。これでは、何も買えない。おんぼろカウチ（ソファのような家具）に身を投げて泣くしかなかった。私のジム。どんなものを買ってあげようか。すてきな掘り出し物、あの人にもってもらおうのにふさわしいものを買おう！と思ってお金を貯めていたのに……。しばらく泣いていたデラはすくっと鏡の前に立ってはらりと髪の毛をたらした。

若い夫婦には、とっておきの宝物として自慢できるものが二つあった。まずはジムの金時計。祖父から父親、そしてジムへと譲り受けたものだった。もう一つはデラの髪。この美しい髪が、まるで茶色の滝のようにきらめいてデラに落ちかかった。膝下まで届く美しい髪……。デラは髪をまとめ直してジャケットを引っかけ、古びた茶色の帽子をかぶり部屋を飛び出し、街へ出た。足を止めたのは「マダム・ソフロニー かつら・ヘア小物」という店だった。「髪を買ってもらえますか？」「20ドルだね。」「では、お願いします。即金で。」店を出てデラはジムへの贈り物を探した。見つけたのは時計につけるプラチナの鎖。すっきりした清楚なデザインだった。これほどジムに似つかわしいものはない。今まではおんぼろな革紐だったから、これをつけたら人目を気にせず、時計を見ることができよう！

家に帰ると、する休みをした生徒のような自分の髪を見て、高揚した気分も冷めた。この髪を見たらジムはなんて思うのだろう……。不安な気持ちをもちながら、夕食の用意をしてジムの帰りを待った。やがて階段を上がるジムの靴の音を聞いたとき、デラは心の中で祈った。「神様、これでもかわいい女だとジムが思ってくれますように。」ドアが開いてジムが入ってきた。ジムはしばらく、おかしな顔をしてデラを見つめた。「ジム、そんな顔をしないで。あなたに何もあげられないクリスマスは絶対嫌だったの。また髪はのびてくるのよ！メリークリスマスと言って。すごくすてきなプレゼントがあるの！」ジムは探るように見まわした。「髪を切ったのか……。もう髪はない？」と呆然としていたジムがわれに返り、愛妻をひしと抱きしめた。そして、コートから小さな包みを出してデラに渡した。「髪を切ろうが、君はかわいい奥さんにちがいはない。でも、その包みをあければ僕が今おかしくなったわけがわかるよ。」デラが包みをあけると髪飾りが輝いていた。鬘甲（べっこう）に宝石をあしらった美しいものだった。ずっと前から欲しかったものだった。しかし、この憧れの髪飾りを飾るべき髪が今はない。デラはジムへのプレゼントを渡した。「おしゃれでしょ！探し回ってやっと見つけたの。これで1日に何百回でも時計を見てね。さ、時計につけてみて。」だが、ジムはカウチに座り、にやっと笑って言った。「デラ、どっちのプレゼントも当分はしまっておこうよ。すぐ使うなんてもったいない。あの時計は売っちゃった。髪飾りを買いたかったからね。さてと、肉を焼いてもらおうかな。」



＝ スクールライフアドバイザー来校日（相談時間 10：00～16：45）

12/3（木） 12/10（木） 12/14（月） 12/18（金）

### 電話での相談

電話による相談もできます。教育相談室直通電話（青年期の探究最終ページに記載）を御利用ください。（保護者の方の相談もお受けします。）